



子どもの森づくり通信

(発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2019年3月号)

〒146-0082 東京都大田区池上 1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
<http://www.kodomonono-mori.net> <mailto:info@kodomonono-mori.net>

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



桜の開花情報も聞かれはじめ、今年も春を迎えました。

また、新しい活動の季節が始まります。

子どもたちの「生きる力」と「共に生きる力」を育む活動です。

今年度もよろしくお願い申し上げます。

(目次)

1. JP子どもの森づくり運動2019活動計画案
2. 10周年記念『保育に役立つ自然・環境体験プログラム集』のご紹介
3. 「東北復興グリーンウェイブ」活動レポート
4. 事務局からのお知らせ / どんぐり博士の「育苗日記」(2019年3月号)

■「J P 子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P 子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P 子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運 営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）
- ・特別協賛 : 日本郵政グループ
- ・後援/協力

(公社) 全国私立保育園連盟

(公社) 国土緑化推進機構

(一社) 日本森林インストラクター協会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

(株) 実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

(公社) 大谷保育協会

NPO法人C・C・C 富良野自然塾

NPO法人自然体験活動推進協議会

(一社) 日本オート・キャンプ協会

保育環境研究所ギビングツリー



1. JP子どもの森づくり運動2019活動計画案

2018年に10周年を迎えたJP子どもの森づくり運動は、2019年からは、次の10年に向かっての新しいステージの活動となります。そこで、新年度の活動テーマを、**これまでの10年間の活動成果を踏まえ、これからの10年の活動の礎（いしづえ）づくりを目指す**としました。そのためにこれからも様々な取組みを提案させていただきたいと思っております。今月号では、まずは、代表的な三つの行動目標を提案します。活動の詳細は、通信の次月号以降にご案内します。



●これからの礎づくりのための三つの行動目標

1) 自然・体験活動をサポートします。⇒自然・環境体験実践講座全国ツアー

活動の持続可能性を高めるためには、体験プログラムの改善や更新が不可欠です。10周年記念「保育に役立つ自然・環境体験プログラム集」（詳細別紙）は、そのために作成されました。2019年度は、同プログラム集を活用した自然・環境体験講座全国ツアーを実施し、参加園の自然・環境体験プログラムの改善をサポートします。

2) 新しいミッションに取り組めます。⇒園庭の緑化運動

今、保育・幼児教育において園庭を緑化し、子どもの自然体験フィールドとして活用しようという機運が高まっています。JP子どもの森づくり運動においても、園庭を、子どもたちが植えた樹木を身近に観察できる有効な植樹フィールドと考え、「こども環境学会」との連携で、“1本の“どんぐり”の苗木を植えることから始める”をテーマに、これからの10間の継続的プロジェクトとして、園庭の緑化運動に取り組むこととしました。

3) 防災活動を強化します。⇒防災講座＆「災害時相互支援協力協定」

「東日本大震災」から「熊本地震」、さらに「西日本豪雨災害」や「北海道胆振東部地震」まで、災害が全国的に多発する現状を踏まえ、今や、保育園・幼稚園・こども園における防災対策は待ったなしの状況です。JP子どもの森づくり運動では、これまで、消防庁アドバイザーの鎌田修広氏と共に、「本当に子どもの命を救うための防災の仕組みづくり」と支援活動を通じた絆づくりを提案してまいりましたが、2019年度はその取組みをさらに強化します。

●普及・広報活動

2019年度も、活動の普及・広報を目的に、様々な展示会やイベントに参加します。今月号では、開催予定の第一案をお届けします。下記の予定は、これからも充実され、更新されます。（＊予定は変更があり得ます。）

開催日時	催事・活動名	主な内容 / 会場
2019年5月11日(土)	「みどりとふれ合うフェスティバル2019」	“どんぐり〜ず”によるステージイベント (日比谷公園)
5月	「東北復興グリーンウェイ」 東北の“どんぐり”を見送る活動	全国活動
5月22日(水)10:00	「東北復興グリーンウェイ」植樹会	山田町合同活動 (岩手県山田町「苗畑」)
5月22日(水)13:00	〃	園庭への植樹 (岩手県宮古市「赤前保育園」)
5月22日(水)10:00	〃	園庭への植樹 (福島県伊達市「伊達こども園」)
7月6日(土)、7日(日)	「大谷保育協会」全国大会	出展、講座 (石川県金沢市)
12月5日(木)～7日(土)	「エコプロ2019」	出展 (東京都)
2020年2月	JP子どもの森づくり運動「全国大会2020」	参加園相互の意見、情報交換 (東京都)

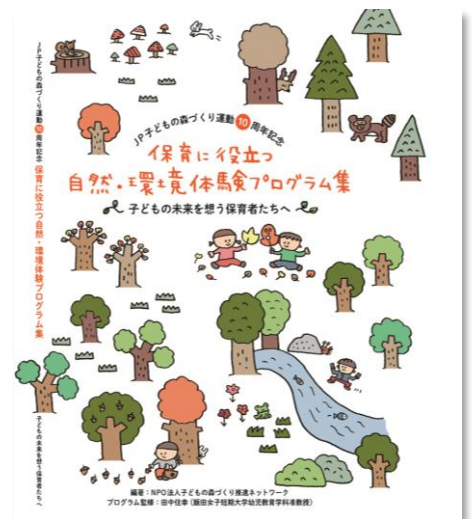
2. 10周年記念『保育に役立つ自然・環境体験プログラム集』のご紹介

J P 子どもの森づくり運動10周年記念として取組んでまいりました自然・環境体験プログラム集が完成しました。本プログラム集の発行目的は、以下の二つです。一つ目は、苗木を育てて植える「子どもの森づくり」プログラムを補完する体験プログラムを提供し、運動の持続可能性を高めること。二つ目は、既存のプログラム集には保育の現場にそぐわないものが多く、必ずしも保育に役立っておりません。そんな事情を踏まえ、本プログラムでは、“保育に本当に役立つ”ことを目指しました。そのために作成にあたって、以下の三つの方法を取り入れました。

1. プログラム集の監修を、飯田女子短期大学 幼児教育学科 田中住幸准教授にお願いし、幼児教育学、及び保育士養成の知見から精査されたプログラムを採用しました。

2. さらに、プログラムそれぞれについて、運動の参加園有志にお願いしてシミュレーション活動を実施し、活動に参加した現場の保育者の意見を内容に反映しました。

3. 全国の運動参加園で、これまで取り組んでこられた優れた自然・環境体験プログラムを事例として紹介しました。間もなくお手元にお届けできる予定です。ご活用いただけますようお願い申し上げます。



3. 「東北復興グリーンウェイブ」活動レポート

●千葉県「今井保育園」東北の“どんぐり”を植える活動

・開催日：2018年11月15日(木) ・場所：自園 ・参加園児：年中(27名)、年少(22名)

どんぐりを植えました

ももぐみ・さくらぐみ

東北が緑あふれる街となるよう復興を原動力に園では子森ネットの活動に参加しています。今回、東北から送られてきたどんぐりをももぐみ・さくらぐみで植えました。



東北地方大震災のときは生まれていなかった子どもたちですが、当時の話を真剣に聞いています。



みんなで、どんぐりが元気に大きく育ちますように！と復興を込めて植えました。元気な苗木が育つよう大切に育てていきたいと思っています。



大きくなあれ！



育てた苗木は、市営公園に植えます。

2. 事務局からのお知らせ

● J P 子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ2019」のご案内

今年も、「東北復興グリーンウェイブ」の、東北の“どんぐり”の苗木を被災地に送る活動が始まります。今年の被災地での植樹会は、5月22日(水)に、岩手県山田町「保育所・保育園合同」、岩手県宮古市「赤前保育園」、さらに福島県伊達市「伊達保育園」での同時開催となります。つきましては、今年も、以下の項目についてご対応いただけますようお願い申し上げます。

1) アンケートのお願い

「子森通信」の今月号に同封して、東北に苗木を送る活動に関するアンケートをお送りします。送られる苗木の本数や「苗木を見送る活動」の開催予定日等について、ご回答いただけますようお願い申し上げます。なお、同活動は、園児さんに活動の意義や意味を伝えるための大切な活動です。お忙しいとは思いますが、是非、開催されることをおすすめします。（＊写真：過去の開催風景ご参照）なお、せっかくの活動ですので、見送る会の活動風景を地元マスコミにリリースして取材を実現し、地域に活動をお披露目下さい。リリース作成については、事務局にてお手伝いさせていただきますのでご相談下さい。

2) “どんぐり”の絆BOX

ゴールデンウィーク明け頃に、東北の“どんぐり”の苗木を送るため専用の「“どんぐり”の絆BOX」をお送りします。別紙アンケートにて必要個数をお知らせ下さい。なお、絆BOXの発送時期が限定されております。今年の発送時期は5月10日～17日発送までです。上記日程で送れない場合は、来年度にお送りいただきますようお願い申し上げます。



千葉県「今井保育園」



静岡県「エンゼル幼稚園」



福岡県「別所保育園」

●どんぐり博士の育苗日記(2019年3月号) ～育苗始めましたか～

長らく育苗の話題から遠ざかっておりましたが、植物たちはとうに冬の眠りから覚め、活発に活動を始めています。育苗や庭の植物たちの世話は再開されましたか。

子森ネット「どんぐり博士」：河内和男（森林インストラクター）



このコラムも2012年から連載を始めて、丸7年を迎えようとしています。最近はあまり基本的な事柄に触れずに来ましたが、育苗にとって、とても大切な季節の春ですから、基本のおさらいをしましょう。

春は、植物たちが休眠から覚めて生命活動を再開する時期です。落葉樹は、葉芽や花芽に貯めた栄養分を用いて、葉を開き、また春に花をつける木は花を咲かせようとしています。そのために、根から水を大量に吸い上げ、その水に栄養分や酵素を溶かし込んで、生命活動に必要な化学反応を盛んに行います。秋に植え付けられたどんぐりも蓄えられた栄養と水分でいち早く根を出し、さらに水を吸い発芽の準備を進めています。

その発芽や開花にとって重要な条件が温度です。けれど、寒暖差の激しい季節ですので、そのときの温度にすぐ反応して発芽（開花）していたのでは、その後の低温により枯れてしまうかもしれません。良い条件の温度が何度か繰り返されるうちに、発芽や開花の準備を整える仕組みが植物には備わっています。

温度は自然に任せなければなりません、日々の水やりは欠かせないください。しっかり雨の降った日以外は、どんぐりにも苗にも水やりが必要です。特に「東北復興グリーンウェイブ」用の苗で、この春に被災地に送り返す、植え付けから3年目の苗（昨春発芽した苗）には、元気な苗を届けるために、十分な水やりを行ってください。